

さいたま市長年頭記者会見

平成18年1月5日（木曜日）

午前11時0分開会

○ 進 行 記者クラブの皆さん、あらためまして明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから、年頭記者会見を始めさせていただきます。

幹事社であります埼玉新聞さん、進行方よろしくお願いいたします。

○ 埼玉新聞 1月の幹事社を務めます、埼玉新聞と申します。

5日目になって、皆さんあちこちでごあいさつされたと思いますけれども、あらためまして、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

それでは、早速ですけれども、市長から年頭のごあいさつ、お願いします。

○ 市 長 それでは、皆さんあらためましておめでとうございます。今年もひとつどうぞよろしくお願いいたしますを申し上げる次第であります。

年頭に当りまして、昨日、名刺交換会が行われまして、その席でもいろいろと申し上げさせていただき、皆さんも取材方お願いをしたところございました。

いずれにいたしましても、元旦の浦和レッズの天皇杯の優勝というのは、まさにこのさいたま市の勢いを象徴するような、私は、思いがいたしまして、今年、さいたま市にとりまして、また市民の皆さんにとりまして、本当にすばらしい年になるような、そんな予感を感じさせていただいたところでもあります。

今年、いろいろこれから、まだ17年度も三月を残しておりまして、まずは17年度、きちんとしたいろいろな事業を最後まできちんと見届けなければいけないということではありますが、また、18年度につきましては、17年度、18年度共通いたしますが、昨年夏、都市経営戦略会議、これを集中的に開催をいたしまして、御承知のようにマニフェストの行程表、実施計画をつくらせていただきました。その忠実な実行ということが望まれるところでありまして、これから予算査定、最終段階に入っていくわけ

ですけれども、予算査定とも関連をしながら、そのような、マニフェストの実行ということに重きを置いていきたいというふうに思っているところでございます。

やはり、何といたしまして、納税者の立場、それから情報公開、市民参画、費用対効果と、この三つの原則を踏襲しながらこのマニフェストの実践をしてまいりたいというふうに思っておりますので、どうぞまた今後ともよろしくお願いを申し上げます。

それから、お手元にお配りしてありますが、さいたま市の消防出初式が8日に行われる予定となっております、また、さいたま市成人式が9日に開催をされるということでございます。

出初式のほうは、今年新たにまた、岩槻のほうに加わりまして、岩槻の消防団、また岩槻の消防車、これらも参加をいたします。

それから成人式ですが、年々出席率が上昇しております、実は、平成12年度、旧の3市の平均は57.21%、57%が平成12年度だったんですが、合併をして13年度におきましては64%ということで、ぽんと上がりました。それから14年が66、15年が68、16年が69ということで、年々参加が多くなっておりますが、やはり、私、旧の浦和の市長の時代も、この成人式は何度も経験をしておりますけれども、文化センターでやったんですけれども、ロビーから会場に入ってもらう作業というのが非常に難しかったんですね。

小野伸二、帰ってくるの帰ってこないのと言っていますけれども、小野伸二に年金のキャンペーンで成人式に出てもらったことがあるんです。そうしたら、小野伸二がステージにいるときだけ、みんなダーッと会場に入ってきて、そのあとは教育委員長さんの話だったんですが、サーッとみんな行っちゃったものだから、俺の話を聞きに来たんじゃないのかと言うから、多分無理でしょうというふうに申し上げたんですけれども、そういうことの中ではですね、今やっている成人式が、中学校ごとの同窓会というかおしゃべりコーナー、これを設けているというのがだんだん知られてきて、行けば楽しいぞと、こういうことになっているのかなというふうに思っています。

御家族、1人だけいいですよということもすっかり定着をしてまいりま

した。今さら親付きでもあるまいにとか、いろいろなジャーナリストは批判をそのころしましたけれども、それはそれとして、それは御意見ですから構いませんけれども、何ていうんでしょうか、普段、二十歳の娘に相手にしてもらえないお父さんが非常に嬉しそうな顔して記念写真撮っていらっしやる。家族の絆を強める一助になったのかなというふうにも思っておりますが、いずれにしても、また今年も成人式が行われます。この、出初式、成人式、どうぞひとつ御取材よろしく願いいたします。

○ 埼玉新聞

どうもありがとうございました。

今のあいさつに、あるいはその、成人式の内容について、各社から質問があればお願いいたします……。

なければ、幹事社の質問に……。

○ 市長

はい、どうぞ。

○ 埼玉新聞

2点ございます。

一つが、新年に臨んで、市長が、今年はこんな年になるだろう、またはこんな年であってほしいと思っていることを御披露いただきたい。

もう一つは、状況がちょっと変わりましたが、地上デジタル用のタワーの建設地問題ですけれども、昨年末までに結論が出ている予定だったんですけれども3月までに延期になったと。これについて御所見を伺えればというふうに思います。

よろしく願います。

○ 市長

新年に臨みということではありますが、御承知のように、さいたま市は、この約5年の間に非常に大きな変貌を遂げてきたのは、皆さん御承知のとおりであります。旧の浦和、大宮、与野の3市合併が13年の5月の1日、そして15年の4月の1日が政令市への移行、17年の4月の1日に岩槻との合併という、まさにホップ・ステップ・ジャンプと申しますか、そのような大きな変貌を遂げてまいりました。

今年についてはですね、ある意味では、やっとその、さいたま市という、政令指定都市さいたま市のキャンパスというか、その市域ですね、これがきちんと確定をした、こういう年なんだろうというふうに私は思っているんですね。

今までは、合併をする、それから政令市にいく区割をどうする、区役所

どうするというふうなこと、それから、岩槻との合併、合併をするかしな  
いかということ含めてですね、やはり、市域というものがなかなか流動的  
であったわけです。区域も当然流動的であったわけです。

それがすっかり固まって、それぞれ、今10区ありますけれども、10  
区がそれぞれ、岩槻との合併記念で区の色というのも決めさせてもらいま  
した。そういうことの中で、各区がこれから区の特徴を出していく。ある  
ところではナンバーワン、そして全体ではオンリーワン、こういうまちを  
目指そうじゃないかというふうに申し上げておりますけれども、そういつ  
た、各区がいろんなキャンパスに色を塗っていくという、そういうことにな  
りますけれども、そのキャンパスの大きさが、大きさと形がやっと確定  
をしたなど、こういう感じであります。

先ほど申し上げましたが、いろいろなマニフェストを出してございまして、  
それがこのさいたま市の大きな方針ということに当然なるわけでありませ  
が、それぞれ、各区がそういったことを生かしながら競い合ってくれると  
いいなというふうに思っているところでございます。

もう一つは、やはり今年は、さっきレッズの話をしましたけれども、優  
勝パレードはやらないそうです。優勝パレードはやらない。犬飼社長に聞  
いたら、やらないよ、何でだと言ったら、今年リーグ優勝するからそのと  
きにやろうと、こういう予定だそうでありまして、予定は未定ですからわ  
かりませんが、ひとつがんばって、そういうね、夢を実現をしてほ  
しいなというふうに思っています。

いずれにしても、そういうマニフェストの問題と、それから07年問題、  
もう07年になるわけですが、いろいろな、団塊の世代の定年に対  
してどうするか。どうするかということは、一つは、市の立場からいうと、  
税収の落ち込みをどうカバーしていくか。これについては、今、企業誘致  
を一生懸命やっております、御承知のように、第一部上場2社の誘致も  
決定をいたしておりますが、これを引き続ききちんとやっていく。

それから、埼玉県全体で見ますと、一番問題になるのは2014年なん  
ですね。東京都あたりは2007年ぐらいからが、団塊の世代が大量退職  
するということになりますが、埼玉県、さいたま市の場合は、まだ多少、  
構成年齢が若いですから、その一番ピークになるのが埼玉県が2014年、

さいたま市が2010年、こういうふうな推計がなされております。

そういったことの中で、今度は労働力不足、こういうのが必ず起きてくるんじゃないか、それをどういうふうに補っていくか。再就職というか再雇用というか、そういったシステムをまた考えていかなければいけない、そういう時期だろうというふうに思うんです。これをうまく乗り越えていきませんと、やはり労働力不足の中で、今、ヨーロッパ各国が、ある意味ではいろいろ問題が出ているのが、他民族の流入というか、移民の問題ですね。これが各租界をつくってしまって、なかなか現地となじまないということの中での、文明の摩擦というのがかなり起きているのは皆さん御承知のとおりです。

特に日本なんかの場合、それが素直に受け入れられるかということ、いろいろな意味で、一番この受け入れづらい民族だろうというふうに思っております。そういうふうな、労働力の確保をどうするか。これが一つ大きな問題に、これからなっていくのではないかなというふうに私は思っております。そういう、まさに岐路に立つ、そんな年だなということをしっかり踏まえながらですね、またやっていかなければなりません。

団塊の世代の問題というのは、やっぱり大きくその二つがあるのかなというふうに思っています。

それから、いろいろな、仕掛けていることが、かなり次々、形が出てくる年なのかなと。例えば鉄道博物館。これは、去年、おかげさまで起工式が終わりました。それから辻南小学校、これも昨年起工式が終わって、今、建設が始まっています。今度、北区にも建てるわけですけども、今ごろですね、いわゆる少子化の中で小学校を2校つくるというのも大変な珍しい現象ですけども、そういったもの。それから、浦和駅の東口の再開発ビルですね。それから武蔵浦和の8-1街区の再開発ビル。こういったものが次々、形が出てくる。完成まではいかないまでもね、かなり形が出てくる、そんな年ですね。

浦和駅の西口の4街区については、今年、もうすっかり完成をします。こういうことになっていますが、いろいろな意味で、仕掛けが、仕掛けておいたものが次々に出て、完成するものもあるし、大きく発展するものもある、そういう年だなという感じがいたします。

そのほか、安全・安心の問題ですね。これはやはり、この1月の10日から各小学校にガードマンの配置を行うということで、今いろいろ準備を進めておりますけれども、この子どもたちの安全・安心、それから今度は鳥インフルエンザとかそういったようなものもあります。そういった、医療的な安心・安全、地震、災害、そういったものへの安心・安全、こういった安心・安全というものがまた再度問われる、そんな年なのかなというふうに私は思っております、マニフェストの実施、安心・安全の確立、それから団塊の世代への対応、それから、いろいろな事業の完成もしくは進展、そういったものがかなりクローズアップされるだろう、今年はされるだろうなというふうに思っております。

もう一つ、スポーツでいえば、先ほど申し上げた、レッズ、アルディージャ、それぞれ大いにがんばってほしいなというふうに思っておりますし、大宮のサッカー場、約41億円かけてこれから改修するわけですが、落ちないでよかったなというのが一番の安心ですけれども、アルディージャ関係の方にも申し上げているんですが、とにかく残留の心配させないでしっかりやってくれというふうに言っておりますが、やはり、さいたまダービーなんか見ていまして、これだけ、Jに2チームがあるまちというのはほかにないので、そういった、スポーツの盛んなまち、こういった特徴もまたしっかりやってまいりたいというふうに思っております。

それから、次の、デジタル放送用タワーということで御質問がありました。墨田・台東エリア v s さいたまと、こういうことでやってまいりました。昨年の12月いっぱい結論が出ると。こういうスケジュールの中でいろいろ両者がやってきたわけですが、その結論を得るまでに至らなかったと。

皆さん御承知のとおり、これ同時並行に協議をしているのではなくて、まず墨田・台東を協議して、駄目だったらばさいたまに次に行くというやり方ありますから、墨田・台東の結論が出ない限り、こちらのほうへの話というのはなかなか難しいということでもあります。

12月の26日に実現大連合の事務局のほうで放送事業者の担当者と直接お会いをしまして、年内には結論が出せない、最終決定の期間を来年3月、この3月ですね、3月末までに延長したとの報告を受けたということ

でございます。

この墨田・台東エリアにつきましては、墨田区、東武鉄道、放送事業者で結んだ三者間の確認書におきまして、最終決定時期のめどを12月末日と、そういうことになっておりましたけれども、最終結論が出せないということで、決定時期が先送りをされたものということでもあります。

なぜ先送りされたのだろうかということについて見ますと、アンテナの賃料や、それから電波障害ですね、有識者委員会から付された3条件、特に安全の部分ですね。総合的に検討を重ねている段階であるということでもあります。

結論が先延ばしにされたことは、まことに、残念というか、そんなに結論も出せないなら早くこっちに持ってこいと、こう言いたい話ですけれども、防災面ではね、やはりなんといっても、さいたま市が断然有利。ある意味で、災害対策という面から言えば、都内にないことが重要だというふうに私は思うんですね。都内にあったのでは一緒に崩れてしまうのではないかと。そうではなくて、都内になくてさいたまにあるということの、その立地が、より安全・安心、防災という面ではいいのかなというふうに思っております。

いずれにしても、県も市も積極的な支援を表明しておりますし、去年は経済界のほうでやっぱりバックアップ体制もとっていただいておりますので、いつでも対応できるという状況には変わりはありません。1日も早くこちらのほうに話が来るといいなというふうに思っております。

とりあえず以上です。

○ 埼玉新聞

どうもありがとうございました。

今のお答えに対して何か質問があれば、お願いします……。

なければ、ほかの質問はありますか。

○ NHK

2007年問題、特に、団塊の世代の方たちの大量退職に関して、市長御自身は何か、例えばさいたま市として、そういった方たちがこれまで培ってきた技術、能力を、市政に生かしていただくとか注入していただくとか、そういう……。

○ 市長

去年、再雇用という制度を立ち上げました。さっき申し上げたように、まだ、ピーク時までにはかなり年数があるものですから、今年の3月

末が大騒ぎという話ではないので、もう少しいろいろ検討してみたいと思っておりますけれども、基本的には、先ほど申し上げたように、やはり大量の退職者がでるということはそれだけ戦力がダウンするということになりますから、それをどう補っていくかということは、きちんと考えていかなければいけないだろうというふうに思っております。

○ 読売新聞 市域、区域が固まったというお話ですけれども、これまでのあいさつや昨日のあいさつなんかでも、十区十色とか、区同士がライバルなんだという話ですけれども、区が、各区が独自色、個性を出していくためには、それぞれ区の努力が必要だと思いますけれども、例えば、今、1億円という、区が独自に使える予算がありますが、それを例えば来年度は予算をふやすとか、区長の権限をもっと多くするとか、そういったお考えは……。

○ 市長 今、都市経営戦略会議のほうで、区のあり方、いわゆる区長権限を含めて、区のあり方はどうあるべきかということで、議論を始めたところなんです。区ができて、やっと今年の3月でまるまる3年か、ですから、区長さんたちとのいろいろな話を聞いていまして、やっぱり人事交流を少しやってほしいという話もあるんです。ところが、ある意味では、1年2年でぼろぼろ動かしてしまうとまた問題も出るし、これでまる3年たちますから、今年あたりが、そういった、いわゆる本庁と区役所の人事交流、その他も本格的にやっていくべき時期だろう、という中でいろいろなまた話が出てくるだろうと思いますし、そういう中で、区のあり方というものをもう1回見直してみようというところですね、今のところですね。

○ 読売新聞 議論が緒についたばかりということは、来年度どうするという話ではないわけですか。

○ 市長 とりあえず今年の4月には、人事交流をまず手をつけていって、それからまた区の、区長権限というか、それから区に予算をどうするかとか、そういう話もまたそういった中でやっというふうに思っていますね。

○ 埼玉新聞 ほかには……。

○ NHK レッズの優勝の関係ですけれども、クラブサイドはパレードはやらないというお話ですけれども、市のほうで何かイベントやったりとか、もしくは、何か賞をあげるとか、そういうのはしないですか。

○ 市長 それはちょっと考えてないけどね。



- テレビ埼玉      サッカーの話でもう1点ですけども、さいたまシティカップは今年も開催されるんですか。
- 市 長            やる予定です。まだ決まってません、全然。
- テレビ埼玉      チームの選定とかもまだ……招聘するチームの。
- 市 長            去年はね、アルディージャも、上がったばかりだから勘弁してくれっていうので、そうだったんですけども、今年どうなるか、まだ。また意向も聞いてみないとわからないものですから、まあ……ただ、日程的にもすごくタイトな日程になりますから、どういうことになりますかね、アジア選手権もからんでくるのかこないのか、ちょっとまだわからないものですから、秋口なんでね、これからです。
- 埼玉新聞        ほかにございますか……。
- なければ、こちらからの質問を終わります。
- 市 長            今年もどうぞよろしくお願いします。
- 進 行            これで年頭記者会見を終わらせていただきます。ありがとうございました。

午前11時24分閉会